



〈38〉

福村 俊治

### あの風景はどこの

と日本・中国の中間に位置する地域の条件を生かしてできた街並みや建物を沖縄戦ですべて失った。そして戦後、米軍基地間の残地に、よ地域という自然条件

た。現在、沖縄本島の中南部で長年風景が変わらず自然の地形と緑が残っているのは米軍基地内だけだと言って過言ではない。かつて小禄や天久に

# 誇れる沖縄を残す

## 市民レベルで始める都市再生



▲米軍施設内に残る大木。もはや本島内で以前の地形と自然をとどめるのは基地内だけなのだろうか  
▼青い海に囲まれた沖縄県。海岸線でさえ、コンクリートの護岸へと姿を変えてしまった



短期間につくり上げたのが現在わたしたちの住む街であり建築群である。特に、日本復帰後の都市化はすさまじい。住宅や商業用地不足を補うために緑豊かな丘陵地を削り、遠浅の海を埋め立てて街をつくった。現在、沖縄本島の中南部で長年風景が変わらず自然の地形と緑が残っているのは米軍基地内だけだと言って過言ではない。かつて小禄や天久に



那覇市泊(上)と天久新都市(下)。経済的繁栄の名の下にコンクリート建築群で埋め尽くされた市街地



に伴うさまざまな問題に対して積極的な政策を打ち出し、都市周辺のインフラ整備と既存市街地の大改造を行っている。土地はすべて国有地だから、すべての計画が早く、安く、実現でき、どの都市もこの十年で信じられない程様変わりし、活気ある近代都市に生まれ変わりがつある。世界の多くの都市で、生き残りをかけて「都市の再生」が試みられている。

### 生き残りかけた試み

冷戦終結後、世界は大きな変革の時代に入っている。日本もその中であつて新しい展望を見つけられず、経済の停滞化、進まない行政改革、高齢化など何ひとつ明るい話はない。街や建築も同じである。日本のどの地方都市も戦後の経済成長の中で自然を壊しながら都市化し、行政主導で東京追隨の画一的な街や建築物をつくってきた。

### ミクロな立場から

さて、沖縄に住むわたしたちは今後どうすべきなのか。街づくりや建築づくりは、どこにでも通用し、こうすればうまくいくという「答え」はない。無数の解答があり、地域や住民に合ったよりよい答えを求め、行政や計画の専門家とともに、住民一人ひとりの意向と協力と議論に基づいて生み出す共同作業であることを忘れてはならない。

現在も貴重な自然をとり崩す形で街づくりが進行している。他方、

より重要なのは、ミクロな立場から美しい街づくり・建物づくりを考えていくことである。つまり、身近な住宅の新築やリフォームの立場からも環境を考え、快適な暮らしができる街や建物をつくる努力が必要である。そして、今住んでいる住宅の窓辺に美しいカーテンと喜花を飾り、道行く人々に楽しみを与えることが、街づくり・建築づくりの第一歩であると考えている。私たちの子孫に誇れる沖縄を残したい。

(おわり)  
(チーム・ドリーム代表)